

まえがき

AIとロボットが世界を大きく変えていこうとしている今、「未来のことは考えてもわからない」といわれています。しかし、少ないながらも明確に予測できることがあります。そのひとつは、人間の寿命が延びるということです。今までは人生70年を、3つのステージに分けて計画していました。20歳ぐらいまでは学び、その知識やスキルを持って60歳までがむしゃらに働いて引退後に備えてお金を蓄え、最後の10年は年金や貯蓄で気楽に暮らす、というのが一般的な労働者の人生だったのです。

ところが、「ライフシフト 100年時代の人生戦略」(リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット(著) 池村千秋(翻訳)、東洋経済新報社 2016年10月21日)によると、これからは人生を100年として設計しなければならぬそうです。そうになると、引退後の生活が大きく変わります。勤労時代には定年後のために所得の10パーセントを蓄え続け、定年後は退職時の半分の資金で暮らしていくと仮定すると、100歳まで生きるには、なんと80歳まで働き続けなければならないそうです。

みなさんは60年近く働くことをイメージできますか？ 今から60年前というと、コンピューターは大企業1社に1台、当然ネットはなく、電子メールは存在しませんでした。テレビがようやく家庭に広まってきた時代です。経理担当者はそろばんが必須でした。

これからの60年は、もつと大きな変化が起こると予想されます。学生時代や入社後の数年で学んだ専門知識だけでは、せいぜい20年程度しか役に立たないでしょう。60年を働き続けるには、働きながらも学び続けることで、社会の変化に自分の知識やスキルを合わせていかなければなりません。社会の変化だけでなく、プライベートの変化も大きいと思います。私の場合、24歳で結婚したときには、「一生専業主婦を貫こう！」と思っていたのに、32歳にして突然主人が亡くなり、当時4歳と6歳の子どもをかかえ、生活のために、やむなくパートタイマーとして就職をしました。社会人として未熟だったため、毎日が大変でした。

職場の悩みを上司に相談したところ、カウンセリングを受けるように、とアドバイスをいただきました。そして、カウンセラーに親身に話を聞いていただくうちに、なんとなく「自分もこんな人になりたいなあ……」と思うようになりました。勉強を始めてみたのですが、当時は子どもが小さかったこともあり途中で断念。ところが、その後、社会保険労務士として開業し、就職支援会社と仕事をするなかで、キャリアコンサルタントという仕事を知り、それがカウンセリングの手法を用いていることから、あらためて興味を持ちました。

当初は社会保険労務士の仕事も満足にできないのに、キャリアコンサルタントを取得しても……と悩みましたが、関与先企業の人材育成のサポートもできる、と先輩からの助言もあり、学校に通い資格を取りました。ここから私の人生は大きく変わったのです。

キャリアコンサルティングの学びを通じて「人の話を聞く」「信頼関係をつくる」「自分の心をいい状態に保つ」などの手法を身に着けたことで、

人間の可能性を信じていることができるようになったのです。人は、自分の強みに気づくことと、サポートしてくれる仲間がいることで、主体的に行動できる、そのことに私自身も気づかされたのです。さらに、新たなことにチャレンジすることによって日々成長できることが喜びとなりました。

そして、私が「カウンセラーになってみたいなあ……」と思ったきっかけをつくってくれた会社を退職して18年目。なんと、その会社のキャリアコンサルタントの職に就くことができたのです。昔お世話になった社員の方々の相談をお受けすることで、恩返しができるようになったのです。「無意識の思いは叶う」という言葉をまさに実感した瞬間でした。

一人の力は小さなものです。けれど、多くの人に助けを求め、多くの人の協力を上げれば大きな力になります。身近な人だけでなく、地域の方々に、組織に、そして社会に貢献していくこともできるのだと思います。「強い思いと目標を持って成功に向けて努力しなければならぬ」と肩肘張って頑張ることも大切ですが、「なんとなく、こうなればいいなあ……」といったぼんやりとした思いを持って働くことでも、自然と学び続けることができ、周囲の人が不思議と助けてくれるように思います。

この本を読んでいただくことで、「人生100年に向けて、自分は何に貢献できるのか、誰の役に立てるのか」を考えるとともに、「なんとなく、私にもできそうだなあ……」といった気持ちになっていただくことができれば幸いです。